一般公開に人の波

新図書館の一般公開がオープンに先立ち、8、9日に行われました。待ちに待った図書館だけあって、初日だけで1,000人以上の人が見学しました。 訪れた子どもたちも「いろんな本があっていい」「毎日こよう」と〝大きな楽しみ〟ができたようで、夏休みを前にして、もう図書館通いの予定をたてていました。

篤志に感謝します

また、新津市図書館の開館を記念して、次の方がたからご寄付がありました。ありがとうございました。

■小林隆峰氏（栗宮）
……日本画「華やかなりしころの新津油田」
■塩練甫氏（善道町2）
……書「奥の細道越後路」
■式場昭子さん（五泉市）
……版画「こどものうた春の使い」
■角田光男氏（東京都）……児童図書17冊
■新津ロータリークラブ
……児童図書500冊（68万円相当）

新津の昔ばなし

(15)

火玉

水沢謙一

あったてんが。

ある晩、古津の街道を、一人の武士が夜道をかけて歩いていた。街道のまんなかごろにきたら、火の玉が、円く、赤く、人の頭くらいなのが、ヒョロヒョロと、さまようていた。

「こいつ、おかしいな。気味の悪いやつだ」

と、そばへ近ずくと、コロコロと、先の方へ逃げていく。

「はて、何か、魔物か」

と、刀をぬいて斬りつけると、ヒョロヒョロと、先へ逃げていく。

また、斬りつけると、先へ逃げていく。そうやって、武士は、火玉を追いかけ、追いかけしていった。

すると、火玉は、つぎの村へいって、一けんのうちの前にきたら、その障子の破れた穴から、ヒョイと、うちのなかへとび込んでしまった。武士が、

「おやっ」

と思っていたら、なかから、じいさんとばあさんの話し声が聞こえた。

「いやいや、おら、おっかね夢を見た。おら、街道にいたら、武士が刀をぬいで、おいかけおいかけてきて、やっと逃げてきた。」

「そうか、それはまた、おっかね夢だの。」

なんていうていた。武士は、

「そうか、あの火玉は、じいさんの抜け出た魂だったか」

と思っていた。

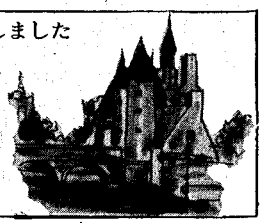
いちごプランとさがった。

〈解説〉

浦興野で、昭和五一年に聞いた話。魂が抜け出る昔話で、「新津の昔話」にも出ている。じつに分布のまれな昔話で、この魂が火玉となって、からだから抜け出てさまよい歩く昔話が、これまで六話だけ見つかっている。まだ、恐らく、どこかに知っている人がいると思われる。

魂のぬけ出る、つまり、遊魂信仰を宿した昔話は、二通りある。一つは、眠っている人の魂が、ハチ、アブ、ハエなどの虫になって、鼻から外界へさまよい出る話で、これは、「夢のハチ」などと呼ばれ、やはり、分布はまれ。新津市にも二話ほど出ている。もう一つは、本話のように、眠っている人の魂が、火玉となって遊魂する話。新津市には、この二つの系統が、さいわいにも消え残っていた。

（日本民俗学会評議員）

お買物、ご用命は市内で

《新発売》
にいつのふるさと〝幸清水〟を新しい感覚で開発しました
幸清水 1ヶ100円
小豆をフレッシュバターで焼いたケーキです
抹茶の香りのするケーキです
冷蔵庫で冷たくしてめしあがるとおいしいです
ホイルで焼いたため日持のよいケーキです
にいつ
Cake & Coffee OSAKAYA オーサカヤ
本町2　TEL 2－0112